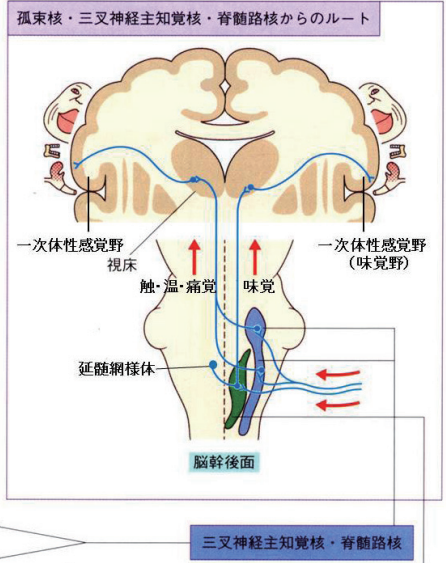


正誤表

この度は、『脳からわかる 摂食・嚥下障害』をご購入いただき、誠にありがとうございます。本書（2017年4月28日初版第3刷）におきまして、下記の箇所に誤りがございました。読者の皆様ならびに関係各位にご迷惑をおかけしたことを謹んでお詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正いたします。

(2021年9月16日作成)

頁数	誤	正
P13 16行目	～深部感覚などの 体性感覚	～深部感覚などの 一般体性感覚
P13 21～26行目	●内臓感覚は、～ 右記に差し替え	●一般内臓感覚は、Ⅸ舌咽神経や上喉頭神経（Ⅹ迷走神経の感覚枝）を經由して口蓋弓・上咽頭粘膜、喉頭の固有感覚（触圧覚、振動覚など）を孤束核に伝える。同時に内臓からの感覚も迷走神経を經由して孤束核に伝えられる。ここを出た内臓感覚インパルスは、特殊なニューロン（介在ニューロン）を介して延髄網様体にある嚥下のパターン形成器に伝えられ、嚥下反射の誘発に重要な役割を果たしている。また、口蓋弓や上咽頭粘膜の接触刺激により口蓋反射（催吐反射）が誘発される。
P26 図Ⅰ -3-2 脳神経核の分布 ・左右の図の中央部 注：	注：疑核、孤束核（味覚を除く）は両側性支配	注：疑核は両側性支配
P26 図Ⅰ -3-2 脳神経核の分布 ・右図	・右図（脳幹後面）の 孤束核 注	・右図（脳幹後面）の 孤束核 注を削除
P30 下から3行目	～二次ニューロンは、同側の視床に至り、	～二次ニューロンは、同側 * の視床に至り、 *の追加（P32に注釈有り）
P31 図Ⅰ -3-5内右下： 味覚の神経伝導路 ※	※内臓感覚を伝える場合の～ 右記に差し替え	※特殊内臓感覚である味覚を伝えるニューロンは同側*の視床に至り、ここから同側の頭頂葉感覚野（味覚野）に終わる

<p>P33 6～8行目</p>	<p>～②舌の後ろ1/3, 口蓋弓・上咽頭粘膜の感覚 [内臓感覚], ③舌の後ろ1/3の味覚 [特殊感覚]～</p>	<p>～② 口蓋弓・上咽頭粘膜の固有感覚 (触圧覚, 振動覚など)[一般内臓感覚], ③舌の後ろ1/3の味覚 [特殊内臓感覚]～</p>
<p>P33 17～25行目</p>	<p>内臓感覚(舌の後ろ1/3など～ 右記に差し替え</p>	<p>一般内臓感覚 (口蓋弓・上咽頭粘膜の固有感覚)の神経伝導路 ●口蓋弓・上咽頭粘膜の固有感覚 (触圧覚, 振動覚など)は, 内臓感覚に分類される. ここからの一次求心性ニューロンは同側の孤束核に至る. ここを出た内臓感覚インパルスは, 特殊なニューロン (介在ニューロン)を介して延髄網様体にある嚥下のパターン形成器に伝えられ, 上喉頭神経 (迷走神経の分枝)からの感覚性インパルスとともに嚥下反射の誘発に重要な役割を果たしている. また, 口蓋弓や上咽頭粘膜の接触刺激により口蓋反射 (催吐反射)が誘発される. (摂食・嚥下機能には直接関係しないが, 頸動脈洞からの線維も孤束核に動脈圧情報を伝え, ここから網様体や視床下部と連絡して, 呼吸, 血圧, 心拍数などを調節している.)</p>
<p>P33 26行目</p>	<p>特殊感覚 (味覚)の神経伝導路</p>	<p>特殊内臓感覚 (味覚)の神経伝導路</p>
<p>P33 30行目</p>	<p>～孤束核では同側の一側性支配を受けている).</p>	<p>～孤束核から同側の視床を経て同側の味覚野に至る).</p>
<p>P34 図I-3-6 内右上: 孤束核・三叉神経主知覚核・脊髄路核からのルート イラスト</p>	<p>右記に差し替え</p>	 <p>孤束核・三叉神経主知覚核・脊髄路核からのルート</p> <p>一次体性感覚野 視床</p> <p>触・温・痛覚</p> <p>味覚</p> <p>延髄網様体</p> <p>脳幹後面</p> <p>三叉神経主知覚核・脊髄路核</p>

<p>P34 図I-3-6 内右上: 孤束核・三叉神経主知覚核・脊髄路核からのルート イラスト内※</p>	<p>※孤束核は～ 右記に差し替え</p>	<p>※孤束核からの内臓感覚性線維は脳幹網様体や視床下部へと至る。味覚(特殊内臓感覚)は同側の一次体性感覚野(味覚野)に至る。三叉神経主知覚核・脊髄路核からの一般体性感覚は反対側の一次体性感覚野に伝えられる</p>
<p>P35 MEMO</p>	<p>MEMO 孤束核・疑核の両側性支配</p>	<p>全文削除</p>
<p>P35 下から 17～16行目</p>	<p>・運動性ニューロン(外喉頭神経)は、下咽頭収縮筋と輪状甲状筋に分布している。</p>	<p>・運動性ニューロン(外喉頭神経)は、輪状甲状筋に分布し、声帯ヒダを緊張させて高音域の発声に関わる。</p>
<p>P35 下から 13～11行目</p>	<p>～反対側視床に至る。一方、内臓感覚は同側孤束核を経て両側の視床に至り、ここからそれぞれ両側の一次体性感覚野に終わる。</p>	<p>～反対側視床に至り、最終的に一次体性感覚野に終わる。一方、内臓からの感覚情報は下迷走神経節を経て同側孤束核に終わる。</p>
<p>P35 下から 10行目</p>	<p>・上咽頭神経の～</p>	<p>・上喉頭神経の～</p>
<p>P36 図I-3-7 内右上: 孤束核・三叉神経主知覚核・脊髄路核へのルート イラスト</p>	<p>右記に差し替え ※孤束核は両側性支配</p>	<p>※孤束核は両側性支配 ←削除</p> 
<p>P37 2行目</p>	<p>内臓感覚(咽頭, 食道, 腹腔の内臓からの感覚)の神経伝導路</p>	<p>一般内臓感覚(咽頭, 食道, 腹腔の内臓からの感覚)の神経伝導路</p>
<p>P37 4行目</p>	<p>～の神経叢も一緒になって～</p>	<p>～の神経叢, さらに喉頭蓋や喉頭の大部分からの感覚情報を伝える内喉頭神経(上喉頭神経の感覚成分)も一緒になって～</p>

P37 5～7行目	～孤束核および疑核は……左右の一次体性感覚野に伝えられる.	全文削除
P37 11行目	●一般感覚の神経路は	●耳介後部の皮膚や外耳道後壁などからの一般体性感覚の神経路は
P38 下から5行目	～嚥下反射を遂行する.	～嚥下運動を促進する.
P50 下から8～5行目	●球麻痺では嚥下の食道期に輪状咽頭筋の弛緩不全が起こり、このために食道口開大が障害されて～	●球麻痺では、嚥下の食道期に輪状咽頭筋(迷走神経咽頭枝支配)の弛緩不全のために、食道口開大が障害～

(学研メディカル秀潤社)